

浮津海水浴場で遊ぼう！



7月7日の海びらき。恒例の宝うばいに、お菓子を求めて多くの子どもたちが集まりました。

浮津海水浴場は、長年にわたって地区が自主運営しています。

更衣室、シャワー、トイレのほか、キャンプ場も併設。売店には、浮津婦人会の手作りお寿司やサンドイッチ、今年は「もちもちポテト」も出店しています。

遊泳期間は8月31日(土)まで、午前9時から午後5時までオープンしています。夏の思い出作りにぜひお越しください。

○お問い合わせ

浮津海水浴場

☎ 43-1570(8月31日まで)

※入野海水浴場は、離岸流による巻出しの恐れがあるため、今年も休場しています。

赤ちゃんとふれあい体験

7月4日・14日に、入野小学校5年生と伊与喜小学校5・6年生が「赤ちゃんふれあい体験学習」を行いました。妊婦や乳幼児とふれあうことで、親の愛情や命の尊さを知り、自己尊重感を高め、他人を思いやれるようになることが目的です。

1日目は、妊婦さんのお腹の赤ちゃんの誕生について学びました。

2日目は、1歳未満の赤ちゃんとふれあい、離乳食を試食。児童らは、聴診器で赤ちゃんの心音を聴いたり、赤ちゃんを抱っこしたり。「柔らかくてかわいい」と笑顔でふれあいました。また、おもゆやすりつぶした野菜などの離乳食を「味が無い」「自然の甘さがおいしい」など言いながら味見し、手間をかけて作ってくれていたことを実感しました。



災害・事故に備え海上訓練

関連機関の連携強化

7月9日、佐賀漁港で、大規模災害に備えた救援物資の海上輸送訓練と、ホエールウォッチング船の事故を想定した海難救助訓練が行われました。高知県、高知県水難救済会幡東救難所、大方遊漁船主会、土佐清水海上保安署、四万十市、黒潮町、中村警察署、幡多中央消防組合黒潮消防署、佐賀地域防災組織などが参加。緊張感のある訓練で、関係機関の連携を強化しました。

佐賀漁港は、県の救援物資などの備蓄・集積拠点の1つで、岸壁の耐震化を進めています。救援物資輸送訓練では、南海トラフを震源とする巨大地震と津波により、高知県沿岸の交通経路が寸断され陸上の輸送が困難になったと想定。沖合で待機している巡視船から、救援物資を漁船で受け取り、港で輸送車に積み込み避難所へ搬送しました。

また、海難救助訓練では、ウォッチング船が磯場に乗り上げ、衝撃で乗客3人が海中へ転落したと想定。別の漁船で漂流者を救助し、港から救急車で搬送しました。その後、ロープを投げ渡し、乗り上げた船を岸壁までえい航しました。



①沖合に待機した海上保安庁の巡視船から救援物資を受け取ります。



②救援物資を車に積み込み、パトカーの先導により各避難所へ。



③海中に転落したホエールウォッチングの乗客を救命浮輪で救助。



④乗り上げ船ひき出し訓練。水の入ったペットボトルをロープに付けて投げます。